

課題の概要

- 地域再生人材養成ユニット名 「せんだいスクール・オブ・デザイン」
 - 総括責任者名 「井上 明久」
 - 機関名 「国立大学法人 東北大学」
- (実施予定期間： 平成22年度～平成26年度)

地域の現状と地域再生に向けた取組状況

仙台市は付加価値の高い産業としてクリエイティブ産業の集積・活用をめざしている。一定規模での集積はあるのだが、地域の産業との関連が弱く、両者を結ぶプロデュース力も弱い。そこで、仙台市は東北大学とも連携し産官学連携の産業支援組織「仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム」を発足するなど、クリエイティブプロジェクトへの支援、人的ネットワークの形成、情報発信、プロデューサによる新規事業創出などを行なって同産業の誘致・集積に努めた。結果、様々な地域連携プロジェクトが起動し、仙台市のクリエイティブ産業の培地としての可能性が顕在化しつつある。

地域再生人材創出構想

この取組では、地域に隠れた価値を新たな角度から発掘し、クリエイティブ・クラスターとの共同プロジェクトを通じて、その価値を育て、地域の活性化を図りうるコラボレーティブなクリエイターおよびプロデューサを養成する。養成の対象となるのは、建築設計、アーバンデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、映像、音楽、ICTシステム開発者、各種先端テクノロジーに関わる独立系エンジニアなど、いわゆるクリエイターおよびそれらをめざす学生である。切実な地域の課題から起こしたプロジェクトに、業務経験を持つクリエイターと学術的知識をもった大学院生を混成チームとしてコミットさせ、プロジェクト・ベースド・ラーニングを通じて上記の目標を満たす人材を養成するプロジェクト駆動型デザイン教育を実施する。これらプロジェクトとあわせてクリエイターと地域企業、学生の活動交流拠点を整備し、多彩なワークショップで技術を鍛えるとともに交流を深め、出版やイベントで成果を広く共有する。

自治体との連携・地域再生の観点

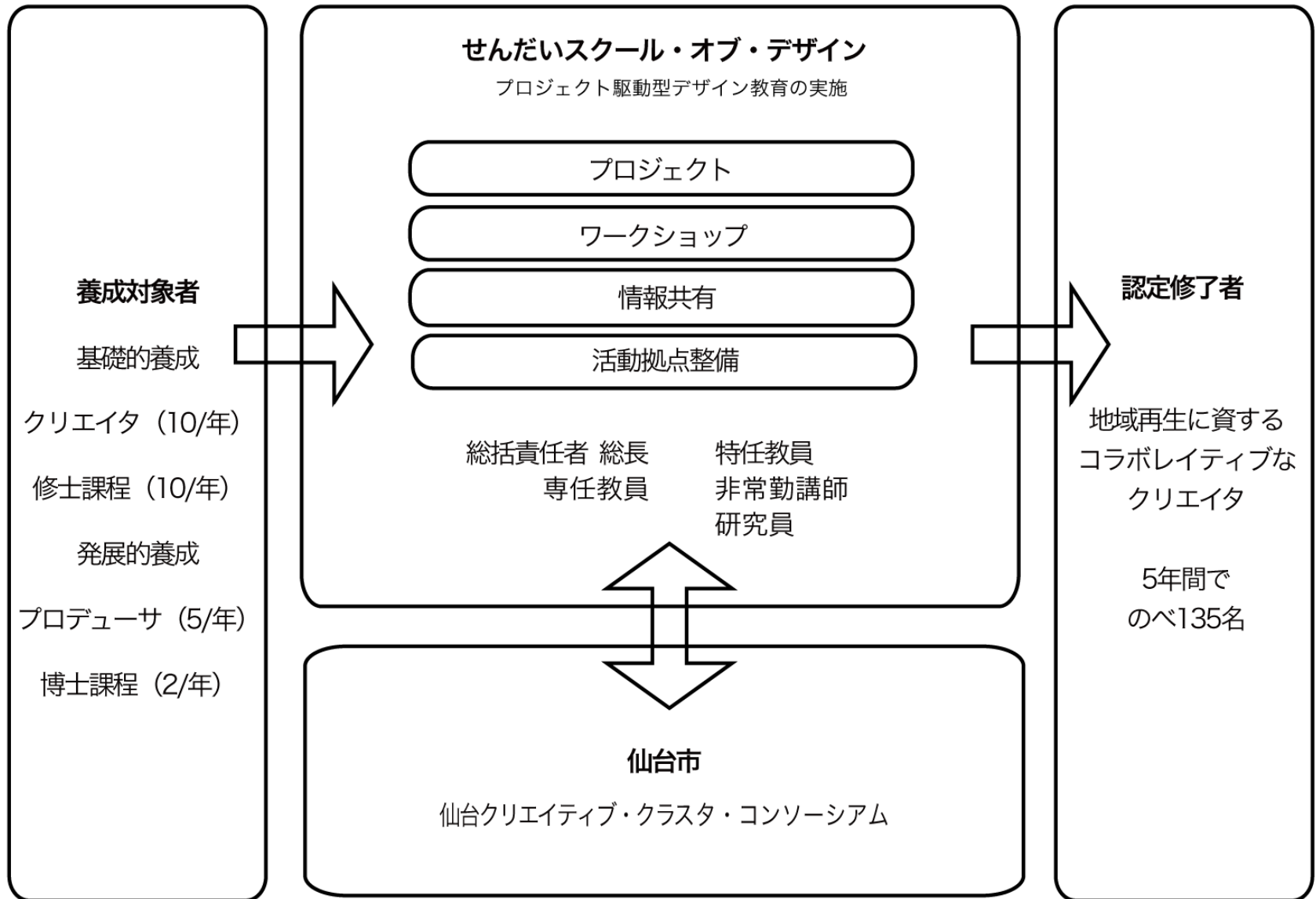
本取組は仙台市の地域再生計画（申請予定）「クリエイティブ・クラスターを形成する地域活性化を担うクリエイター養成プログラム」において実施される「地域の諸課題に対するソリューションとしてのプロジェクト」に対し、東北大学が学術的・専門的見地からデザインマネジメントのプログラムを提供することによって、当該プロジェクトを高度なクリエイター育成の機会とするものである。

仙台市にとってクリエイティブ産業のさらなる育成・強化が産業振興策として必須であり、そのためにはクリエイターを引きつける魅力ある環境を整備し、継続的な学術的専門的学習を提供することが必要である。あわせて、クリエイティブ産業と他の既存産業との連携による地域産業の高付加価値化や、まちづくり全般と連携した産業振興、産業集積形成の取組が必要である。本取組の枠組みはこれらの課題に直接寄与するものである。

養成された人材が地域に定着することにより、新産業としてのクリエイティブ産業のレベルが引き上げられ、また彼らとのコラボレーションによって成果をあげる企業が増えることで、地域の活性化がはかれる。

ミッションステートメントの概要

取組期間内に 25 件のプロジェクトに着手し、延べ 50 名のクリエイター、50 名の修士、35 名のプロデューサおよび博士を参画させる。ワークショップを 30 回開催する。これらの成果をシンポジウムと出版等によって公表する。



【プロジェクト駆動型 実践デザイン教育】→→多規範適応型デザイン専攻へ

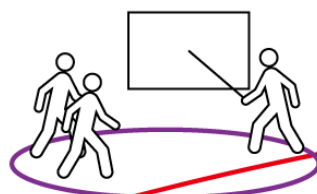
地域活性化を図れるコラボレイティブなクリエイタの創出
多規範適応型のデザインマネジメント能力、高度なコミュニケーション能力、プロデュース力

情報共有
プロジェクトの成果を地域に発信
アーカイブの構築

パブリケーション



プレゼンテーション



リサーチ



デザイン・
デベロップメント



多彩なテーマでのワークショップ
アウトリーチから最先端スキル獲得まで

ワークショップ
多規範かつ多面的なアイデアを
創出するスキルをアップ



トラベリング・ワークショップ
地域の問題を国際的な視点から考える

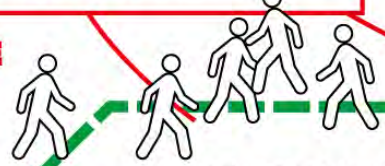


クリエイタ・イン・レジデンス
外部クリエイタを招聘して滞在共同制作



プロジェクト
地域のクリエイタ × 大学院生のコラボレーション
多規範によるプロジェクトベースドラッシング

地域の課題発掘



養成対象者：クリエイタ、独立系エンジニア、それをめざす学生
建築設計を中心に、アーバンデザイン、プロダクトデザイン、
グラフィックデザイン、映像、音楽、ICTシステム開発…

活動拠点整備
多規範適応型デザイン創成環境
新地下鉄東西線沿線まちづくりと連携

【せんだいスクール・オブ・デザイン】

ミッションステートメント

- 地域再生人材養成ユニット名 「せんだいスクール・オブ・デザイン」
- 総括責任者名 「井上 明久」
- 機関名 「国立大学法人 東北大学」
(実施予定期間：平成22年度～平成26年度)

(1) 地域再生人材創出構想の概要

仙台市は、クリエイティブ産業の集積は一定程度みられるものの、そのプレゼンスは弱く、地域へのコミットも十分とはいえない。そこで、仙台市と東北大学が協力し、地域の具体的な課題を掘り起こして実践的なプロジェクトを創出し、当該プロジェクトをプロジェクト・ベースド・ラーニングの機会としてクリエイタおよび学生を参画させ、デザイン開発とマネジメントに関するプログラムを提供することによって、将来地域の企業と連携してコラボレーション・プロジェクトの立案・実施者となりうるクリエイタおよびプロデューサを養成する。

(2) 3年目における具体的な目標

15件のプロジェクトに着手し、延べ30名のクリエイタ、30名の修士、21名のプロデューサおよび博士を参画させる。ワークショップを年6回計18回開催する。それらの成果をシンポジウムと出版等によって公表する。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

25件のプロジェクトに着手し、延べ50名のクリエイタ、50名の修士、35名のプロデューサおよび博士を参画させる。ワークショップを年6回計30回開催する。それらの成果をシンポジウムと出版等によって公表する。

(4) 実施期間終了後の取組

実施期間終了後は、建築デザイン部門を核とする総合的な多規範適応型デザイン学専攻（仮称）へ移行し、社会人教育にも門戸を開放した総合的なデザイン・スクールとして展開する。また、継続的に業としてプロジェクト・マネジメントのコンサルティングを行なう。

(5) 期待される波及効果

本取組に参加してスキルアップした人材が、地域に定着することにより、クリエイティブ産業のレベルが引き上げられ、その集積価値が増大する。またクリエイティブ産業との連携によって成果をあげる企業が増えることで、地域の活性化がはかれるとともに、学都仙台、創造都市仙台のイメージが強化定着することで、地域住民の誇り（シビックプライド）を高めることができる。